

訃報を受けた際の適切な対応手順

ここでご紹介する内容は、あくまで一般的なマナーです。

宗教や地域によって細かな作法が異なる場合がありますので、あらかじめご留意ください。

① 情報確認

- ・ 連絡元に事実を再確認
- ・ 葬儀の形式（仏式／神式／キリスト教式ほか）を聞く
ポイント：宗派で香典袋・数珠が変わる

② 初動連絡

- ・ ごく親しい間柄なら駆けつける可否を相談
- ・ ビジネス関係者には直属上司へ第一報
ポイント：社内・SNSでの拡散は遺族了承後

③ 参列可否決定

- ・ 通夜のみ／告別式のみ／両方かを選択
- ・ 遠方なら交通と宿泊を即手配
ポイント：遅刻は厳禁。開始15-30分前到着

④ 香典・供物準備

- ・ 相場を確認（例：友人1万円、上司1～3万円、親族3～10万円）
- ・ 仏式なら「御香典」表書き、黒白結び切り水引
ポイント：新札は避け、どうしても新札なら折り目を付ける



御香典を探す

⑤ 服装準備

- ・ 喪服（正式／略式）、黒ネクタイ・黒ストッキング
 - ・ アクセサリーは真珠1連のみに
- ポイント：黒マスク必須かは斎場に確認



喪服を探す

⑥ 当日のマナー

1. 受付で一礼し香典提出
2. 焼香・献花は係の指示に従う
3. 遺族へ一言だけお悔やみ

ポイント：スマホ電源オフ、写真撮影は不可

⑦ 参列できない場合

- ・ 弔電（NTT 電報／ネット電報）＋ 香典書留
 - ・ 弔問は初七日以降、遺族の負担が減ってから
- ポイント：書留封筒外側に「御香典在中」明記



弔電を送る



献花を送る

⑧ 会社対応

- ・ 忌引き申請、代理人手配
 - ・ 弔電や供花を会社名で手配
- ポイント：社内回覧は個人情報に配慮

⑨ アフターフォロー

- ・ 四十九日・一周忌の予定把握
 - ・ 香典返し受領後に「お礼状」を出す
- ポイント：手紙は黒枠なし白便箋で可



黒枠なし白便箋
を探す